

水の特別賞

「水と生きよう」

浦和実業学園中学校 一年 橋本 和

毎日の生活で、当たり前のように使用している貴重で大切な「水」ですが、時にそれが人を脅かす脅威にもなってしまうことがあります。昨年十月十二日に起きた台風十九号のことを覚えていますか。ぼくの家は埼玉県戸田市の荒川から近いところにあります。その日は、ずっと雨がとても激しく降っており夕方には同じ戸田市の友達の家近くの道路では膝くらいまで冠水していると聞きました。ぼくの家も浸水してしまうのではないかと不安な夜を過ごしたことを覚えています。ところが、翌朝起きてみると、浸水などは一切ありませんでした。なぜ浸水しなかったのかを母に聞いてみると「調節池って所に放流されたみたいよ。」と言いました。

台風十九号で埼玉県では死者四名、住宅全壊百三十四棟、半壊五百四十一棟、床上浸水二千三百七十棟、床下浸水三千三百八十八棟もの被害が出たにも関わらず、なぜぼくの家近くでは道路の冠水すら起きなかったのだろうか。そもそも母の言っていた調節池とは何だろう。「調節池とは上流で大雨が降るなどして、川の水位が上昇した際に、水の一部を一時的に貯めることで川の水量を減らす設備。川と池の間の堤防を一部低くすることで、水位が上がると自動的に流れ込む。大小様々で、普段は公園や空き地になっている場合もある。」そのような設備が家の近くにあることを初めて知りました。荒川第一調節池は普段は公園、バーベキュー場、釣り堀、テニスコート、ヤクルトスワローズの第二球場などとして使われています。ぼくも小さい頃からよく遊びに行っていた場所です。台風十九号のきた翌日、荒川土手まで自転車で行って、見た光景におどろきました。いつもは公園や球場がある所が全て水でおおわれていたのです。その後帰って、その水の量を調べてみると、総貯水量三千九百万トンのうち約三千五百万トンの水が貯められていたことがわかりました。この調節池

が使用されたのは今回で二回目だそうです。前回は一九九九年に約二千七十万トン貯水されたようなので、貯水量で比べてみても今回の台風十九号の降水量のすごさが伝わってきます。この調節池のおかげで、ぼくの家周りの地域や家より下流の地域(東京都北区周辺)の浸水被害などはまぬがれました。普段は公園などに使われ、非常時には被害を最小限にしてくれる調節池は人のために役立っているとても大切なものだと思います。

この作文を通して、ぼく達が安心して暮らせるように、災害が起こっても、被害が少なくなるよう、色々な工夫がされていることがわかりました。まだまだ知らないことはたくさんあると思いますが、自分たちの住む地域はどんな対策をしているのかを知ることが大切なのだと思います。万が一の時に、パニックにならず落ち着いて行動できるように、これからも正しい知識を身につけていきたいと思います。